



Weekly Market Report

FX, JPY Interest Rate, Topics

Aug 3, 2026

1. 為替相場概況

28年ぶりの協調介入で円高進行、円安是正へ。

USD/JPY (1週間の値動き)



(出所) Bloomberg

コメント

先週のドル円相場は非常に値動きの激しい展開となった。週初は、FOMCとBOJを控え様子見姿勢が強く、163円台後半を中心に、方向感の欠ける展開となった。週中には、FOMCで政策金利の据え置きが決定されたが、市場では一部サプライズ利上げの可能性もあるとの見方があったことから、発表後はドル売りの動きが見られた。その後日銀会合前日に、政府・日銀による円買い介入とみられる動きが入り、ドル円は一時157円台まで急落。週末には日銀が政策金利を据え置いたことで円高は一服するも、ニューヨーク連銀がユーロ売り・円買いに動き、政府・日銀も再びドル売り・円買いを実施したことで、157円台前半まで下落して越週。今週はさらなる介入への警戒と、雇用統計など重要な米経済指標に注目が集まる。さらに、投機筋の円売りポジションの巻き戻しがどの程度加速し、ドル円を下押しするかにも注目したい。(市場営業部/川上)

今週の経済指標 (予定)

日付	イベント	予想
8/3(月)	ISM製造業景況指数 (米国)	53.9
8/4(火)	6月雇用動態調査(JOLTS)求人件数 (米国)	740.0 万件
8/5(水)	日銀・金融政策決定会合議事要旨 (日本)	-
8/5(水)	7月ISM非製造業景況指数(総合) (米国)	54.4
8/7(金)	7月非農業部門雇用者数変化(前月比) (米国)	8.5万人

USD/JPY (5年間)



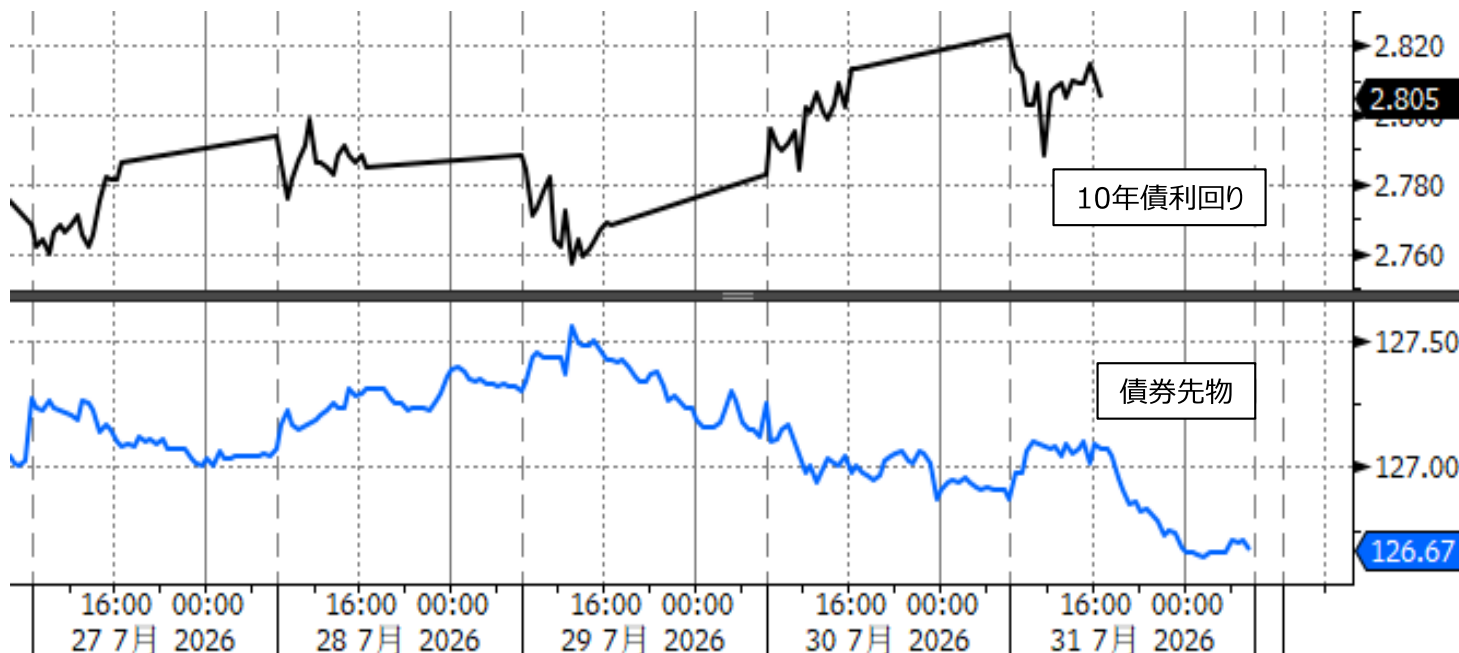
(出所) Bloomberg

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
下出康平	154.00 – 160.00	円安是正に向けた日米両政府の方針を見極めたい。ドル売り一巡後の巻き戻しに要注意。
足立隼一	154.50 – 159.50	協調介入への警戒から上値は重い一方、減税に伴う国債増発懸念が下値を支える攻防を想定。

2. 円金利相場概況

円安によるインフレ警戒感や財政懸念から円金利は上昇しやすい展開か。

10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）



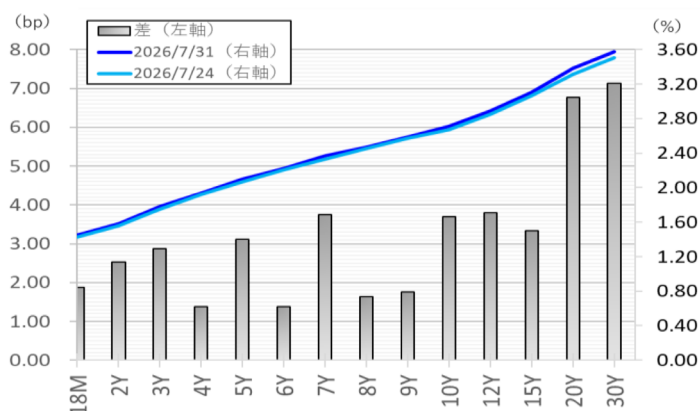
G1GB10 Index (日本国債10年単利) IGB.F 30 日 30 分 Copyright© 2026 Bloomberg Finance L.P. 03-Aug-2026 07:49:17

コメント

(出所) Bloomberg

先週の10年国債利回りは週央に低下し週末にかけて上昇。週初はトランプ米大統領がイランへの大規模攻撃を当面見送る方針であると伝えたことや、イラン政府高官が米国が攻撃を停止する限りイランも攻撃を抑えるとの考えを示したことで中東情勢悪化への懸念が和らぎ債券が買われ、10年国債利回りは2.80%台から2.75%台まで低下してスタート。週央はFOMCで政策金利据え置きが決定したものの、ウォーシュFRB議長が利上げについて示唆しなかったことでFRBが物価対応に後れを取るとの警戒感から米金利が上昇し、10年国債利回りもつられて2.79%程まで上昇。週末は日銀金融政策決定会合で政策金利1.0%据え置きが決定されたものの、展望レポートでは物価上振れリスクや為替相場に関する言及がややタカ派的と受けとめられ10年国債利回りは小幅に上昇し、2.805%で越過している。今週は円安を通じたインフレ警戒感や消費税減税等財政懸念も引き続き意識されやすく、金利上昇しやすい展開と予想する。(市場営業部/飯野)

金利スワップ変化（1週間）



10年円金利スワップ推移（5年間）



(出所) Bloomberg

今週のレンジ予想（10年国債利回り）

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
遠藤風翔	2.75% - 2.90%	中銀イベントを経て、原油価格の上下に振られる展開を予想。国内イベントでは4・6日の10年・30年債入札に注目したい。
伊豆浦有里恵	2.73% - 2.86%	円安是正や中東攻撃見送り後も先行きは不透明。10・30年国債入札や米雇用統計を控え強弱交錯し方向感を探る。

3. 今週のトピックス

ユーロ相場動向

欧州景気に対する不透明感は根強いものの、ECBの利上げ期待がユーロ相場の下支えに

<ユーロ圏の経済状況>

7月のユーロ圏総合PMIは51.9と前回の50.0から改善する結果となった。製造業が52.0（前回51.4）に上昇したほか、サービス業についても51.6（前回49.4）に大きく改善しており【図表1】、6月に米国とイランが停戦で合意したことを受けてユーロ圏でも経済活動への前向きなセンチメントが高まったためとみられる。欧州の主要国であるドイツやフランスのPMIも改善が示されたが、7月に入ってからイラン情勢悪化に加え、欧州の熱波によるライン川の水位低下でドイツの水上輸送が滞るなど、ユーロ圏の景気回復基調が持続するかどうかは不透明な状況といえそう。ユーロ圏の7月HICPについては総合が前年比+2.9%、コア指数が+2.5%と落ち着いた推移となっている。

<ECBの金融政策>

7月のECB理事会では、預金ファシリティ金利が2.25%に据え置きとなった。ECBは原油高によるインフレ懸念から前回の6月会合で25bpの利上げに踏み切ったものの、ユーロ圏のインフレに落ち着きがみられていたことでいったんは様子見の姿勢を示した格好だ。ただし、ラガルド総裁から「インフレ見通しには上振れリスクがある」とややタカ的な発言があったことから、次回9月会合での利上げはほぼ織り込み済みでその次の利上げについては原油価格の動向次第といえるだろう。

ドイツ金利については、ECBの利上げ期待とドイツにおける財政支出拡大の思惑から上昇基調となっており、10年金利は2011年以来となる3.20%程度で推移している。ただし、2年金利の上昇スピードが速いためイールドカーブはフラットニングが進んでいる状況だ【図表2】。

<当面のユーロ相場見通し>

当面のユーロ相場については、欧州景気に対する不透明感に加え、イラン情勢の悪化を受けた有事のドル買いがユーロの押し下げ材料となってくるが、ECBの利上げ期待やユーロ圏の経常収支が黒字を維持していることが下支えとなり、当面はレンジ相場が続くとみられる。

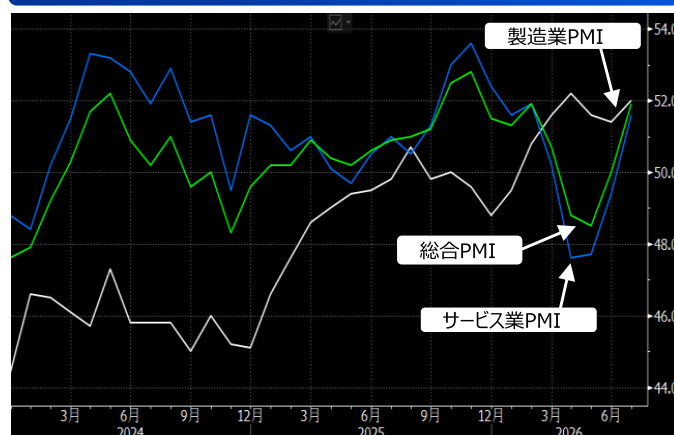
ユーロの対ドル相場については1.1200-1.1800、対円では176.00-186.00円のレンジを想定している。

NY連銀が日米協調介入の一環としてユーロ円市場で円買い介入を行ったとの観測からユーロ円相場は大きく下落しており、当面は上値の重い展開が予想される。

シカゴ通貨先物の投機筋ポジションについては、2月に18万枚まで拡大していたユーロのネットロングポジションが、現在は7万枚程度のネットショートに転じており【図表3】、ポジションの巻き戻しが起きた場合にはユーロの上昇材料となってくる。

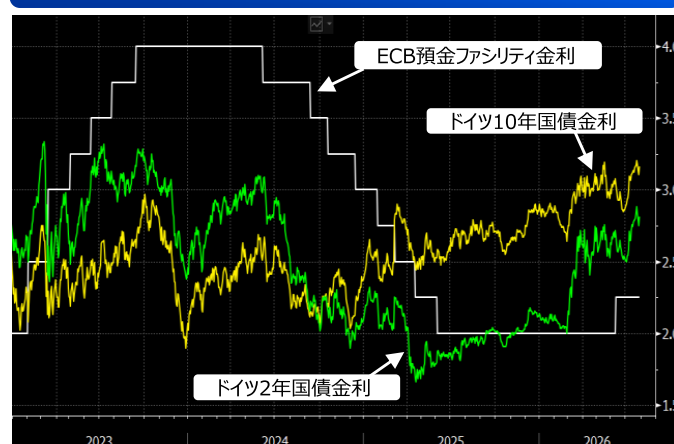
（チーフ・マーケット・ストラテジスト／諸我）

【図表1】 ユーロ圏購買担当者景気指数（PMI）



（出所:Bloomberg）

【図表2】 ECB政策金利と独2・10年金利（％）



（出所:Bloomberg）

【図表3】 ユーロドル相場とシカゴIMMポジション（枚）



（出所:Bloomberg）

ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会